Ichikawa General Hospital News
issou
2019.3
Vol.24
東京歯科大学市川総合病院ニュース
発行：東京歯科大学市川総合病院広報委員会

DATA：脊椎・脊髄病センター
- 日本整形外科学会研修施設 ●日本手外科専門医認定研修施設
- 主な対象疾患：【頚椎】頚椎症性脊髄症、頚椎症性神経根症、頚椎症性筋萎縮症など【胸椎】胸椎黄色靭帯骨化症、胸椎後縦靭帯骨化症、胸椎症性脊髄症など【腰椎】腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症、腰椎変性側弯症など【手術法】椎間板摘出術（ヘルニア摘出術）、脊椎固定術、BKP（Balloon Kyphoplasty、バルーン後弯矯正術）など

骨粗鬆症性椎体骨折を救う、「BKP」の実践

各部門の専門医が集う

当センターは高度専門領域に最大の力点を置いています。所属する医師は全員、日本整形外科学会の専門医であるとともに脊椎・脊髄、小児整形、人工関節、手の外科などそれぞれが得意とする部門の指導医、専門医を持っています。

また、患者さんを第一に考えて低侵襲手術を積極的にとりいれています。この低侵襲手術を実施するなかで、昨年から新たに骨粗鬆症性椎体骨折への治療法として「BKP（Balloon Kyphoplasty：バルーン後彎矯正術）」が加わりました。

骨粗鬆症性椎体骨折の現状

超高齢社会に入り、疾患を持つ人の数も急激に増加しています。骨粗鬆症もそのひとつで患者数は約1,300万人といわれています。これは高血圧症や糖尿病に匹敵する数字です。

その骨粗鬆症が引き起こす疾患として、骨粗鬆症性椎体骨折があります。これは脆弱化した椎体骨が圧迫や軽微な外傷で骨折してしまう疾患です。発生率は非常に高く、70歳代女性では22.2%、約5人に1人が発症しているという報告があります。

椎体骨折の症状は骨折部の疼痛ですが、多くの場合、コルセットなどの保存的治療で自然に回復します。一方、骨が癒着せず偽関節となると、起き上がる、座るなど体を動かした際に激しい疼痛を生じることがあります。こうした症例は全体の30%にのぼるという報告もあります。

また、椎体骨折が1ヵ所生じると別の場所が骨折する確率が3.2倍となり、2ヵ所あると9.8倍になるといわれています。加えて椎体骨折は生命予後にも大きな影響をおよぼすことがわかっており、1ヵ所以上の椎体骨折がある場合、死亡率は約3割上がり、5ヵ所以上ある場合の死亡率は1ヵ所の場合の約2.5倍に上がるという報告もあります。

このように、椎体骨折は患者さんの生活に非常に大きな影響をおよぼす疾患です。まずは骨折を起こさないことが最も大事ですが、起こってしまった場合は1ヵ所に止め、できるだけ正常な形で修復することが求められるのです。

BKP
（Balloon Kyphoplasty バルーン後彎矯正術）

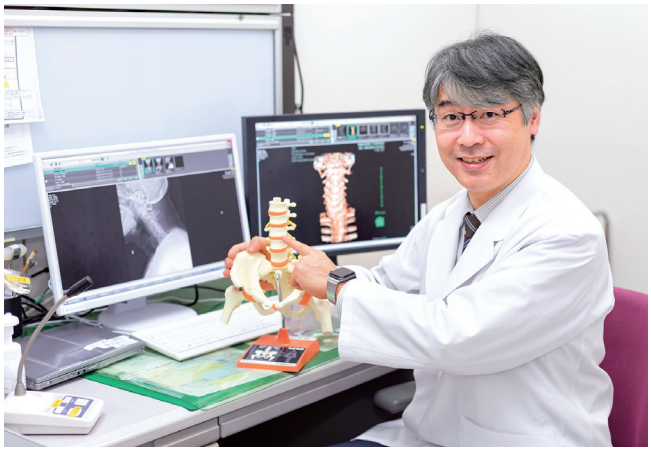
この回復しない椎体骨折への対応として、従来は背中を大きく切開しインプラントで固定する手術が行われていました。しかし、侵襲が少ない手術を目指す当センターでは、昨年からBKPを導入しました。BKPは、経皮的に骨折した椎体内にバルーンを挿入し、膨らませ、つぶれた椎体の形を整えます。その後バルーンを抜き、ひろがった空間に骨セメントを注入します。セメントは10分ほどで硬化し、椎体は固定されます。これによって痛みなどは大きく軽減し、多くの患者さんが日常生活を支障なく送れるようになるのです。

治療後も地域と連携して骨粗鬆症を支える

脊椎・脊髄病センター

この手術のメリットは、背中を小さく切開するだけという侵襲の少なさです。現在BKPは全身麻酔下での手術が定められていますが、入院は6日間程度で済むことも患者さんにとってはメリットでしょう。

一方、セメントが脊椎周囲の静脈に流入し肺塞栓を起こすといったリスクがわずかながら存在します。このため、BKPを行えるのは専門のトレーニングを受けた医師のみとなっています。また、全身麻酔下で行う必要があるため、設備面でも条件があります。したがってBKPを行える施設は限られており、市川市周辺では当院のみとなっています。



適応があればすぐに対応

当院では、このBKPをスムーズに行うための連携システムを整備しました。

椎体骨折で保存的治療を1ヵ月行っても痛みがとれない、あるいは2週間経過しても激しい痛みがあるような場合にBKPの適応をご検討頂きます。ご紹介にあたり、地域医療連携室が窓口となって専用の申込書にてご予約を受けつけています。診療時にMRIの画像が必須となりますので、当院または近隣の撮影可能な医療機関をご紹介します。診察でBKPの適応と診断されれば、1週間程度で手術を行うことができるというシステムです。

患者さんには手術の前日に入院して頂き、同時にテリパラチドなどによる骨粗鬆症治療を開始します。当院には骨粗鬆症マネージャーがおり、チームで生活指導や薬物療法の検討が行われます。そして手術後4～5日で退院となり、地域の先生方のもとで骨粗鬆症の治療を継続して頂きます。

最後に、BKPは確かに有効な治療法ですが、あくまで痛みをとる対症的なものであり、一次骨折や二次骨折を起こさないためにも、骨粗鬆症の治療をしっかりと行っていくことが重要だと考えます。超高齢社会の現代にとって、骨粗鬆症治療は大きな課題のひとつです。是非とも地域の先生方と密に連携し、適切な治療を行い、患者さんに痛みの無い生活を提供していきたいと思います。

Dr's profile

Ryouma Aoyama
青山龍馬 医師

出身
大分県中津生まれ、埼玉育ち

スポーツ歴
ラグビー（大学時代）

趣味
観光、旅行
（シンガポールが一番！）

医師になったきっかけ
医療関係者の多い環境に育ったので小さいころからの夢だった（神経と背骨に興味があった）

座右の銘
利他！
（他人に利益を与えること。自分の事よりも他人の幸福を願うこと）

医療機関の先生方へ　市川総合病院　診療情報提供書　検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。
ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151（内線2214） FAX 047-324-8539（直通）
開室時間　月曜日～金曜日：午前9時～午後5時　土曜日：午前9時～午後1時（第2土曜日は休診日）